

ABSTRACT (JP5-21295)

5 This invention relates to a sealed transfer electromagnetic relay in which contacts are housed in a sealed space. When the coils 208a and 208b are not excited, the armature 206 is attracted to one core 204a having a fixed contact on the top thereof by the magnetic force of the permanent magnet 207a. When the coils 208a and 208b are excited, the armature 206 is attracted to the other core 204b having another fixed contact by the flux F 1 and F 2 generated by the exciting current.

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑫ 特 許 公 報 (B 2)

平5-21295

⑤ Int. Cl. 9

H 01 H 51/22
51/24

識別記号

B
B

庁内整理番号

7826-5G
7826-5G

⑭ 公告 平成5年(1993)3月24日

発明の数 1 (全5頁)

⑭ 発明の名称 気密封止トランスファ-形電磁継電器

⑯ 特 願 昭58-184524

⑰ 公 開 昭60-77333

⑱ 出 願 昭58(1983)10月4日

⑲ 昭60(1985)5月1日

⑳ 発 明 者 相 原 良 樹 東京都港区芝五丁目33番1号 日本電気株式会社内
 ㉑ 発 明 者 鈴 木 英 雄 東京都武蔵野市緑町3丁目9番11号 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所内
 ㉒ 発 明 者 青 木 武 東京都武蔵野市緑町3丁目9番11号 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所内
 ㉓ 発 明 者 岸 本 保 夫 東京都武蔵野市緑町3丁目9番11号 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所内
 ㉔ 出 願 人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号
 ㉕ 出 願 人 日本電信電話株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目1番6号
 ㉖ 代 理 人 弁理士 村田 幹雄
 審 査 官 山 下 弘 綱

I

2

⑳ 特許請求の範囲

1 金属基板をハーメチックシールガラスを介して貫通する端子および第1、第2の鉄心と、両側に剛体部を形成し、中央にばね腕部と支持部の形成すると共に、両端下面に接点金属を設けた可動接点磁性ばねと、該可動接点磁性ばねの剛体部分を支持する隆状突起を両端に有し、中央に前記支持部を固着する支持面を形成した前記端子の上端部に固着された支点部材と、第1および第2の鉄心の少なくとも一方の近傍に配置された永久磁石と、両方の鉄心に巻回され、前記可動接点磁性ばねを傾動させて接点金属を第1および第2の鉄心の固定接点部材に選択接触させる励磁巻線を備え、且つ金属板上のこれら接点系を金属容器により密閉封止したことを特徴とする気密封止トランスファ-形電磁継電器。

㉑ 発明の詳細な説明

本発明は、接点系を構成する部材を密封容器内に封入した、特にトランスファ-動作を行なう気密封止トランスファ-形電磁継電器に関する。

従来、この種の電磁継電器は、第1図及び第2

図に示すように構成されている。すなわち、外周に励磁巻線110を巻線棒9を介して巻装し鉄心101をなす筐体108を貫通する第1の端子脚101aと、この第1の端子脚101aの両側において前記筐体108と一体形成されたL字状の第2および第3の端子脚104a、104bと、前記第1の端子脚101aの上端部にダイヤフラムパネ103を介して固着され、且つ前記第2および第3の端子脚104a、104bの水平板部上にそれぞれ形成された固定接点部材105a、105bと選択的に接触する可動接点107a、107bを両端部に有する接極子102と、前記第2および第3の端子脚104a、104bの水平板部上の少なくとも一方に配設された永久磁石106a、106bと、前記筐体108上に接合されて前記接極子102および前記永久磁石106a、106bを気密的に収容する封入容器を構成する蓋体111とからなり、前記励磁巻線110により生じる磁束 ϕ_1 、 ϕ_2 、 ϕ_3 の方向あるいは磁束の有無によつて、前記接極子102の各端子において対向する端子脚104a、104b間の

3

磁気吸引力の差を生じさせて前記接極子102の傾動方向を変え、接点切替えを行なうようにした単位接点切替素子を少なくとも1つ備えている。しかしながら、このような構成とすると、接極子102とダイヤフラムパネ103とが別個に形成されているため部品点数が増えると共に、溶接工程も多く、更に、一般に接触子102の質量は磁性ばねの質量よりもはるかに大きいため耐衝撃性に劣るといった欠点があった。又、前記第1の端子脚101aに励磁巻線110が巻回される構造となるため、第1の端子脚101a、すなわち鉄心101と接極子102間の磁気抵抗が大きく、更に、接極子102の先端と励磁巻線110との距離が大であるため磁気効率が悪く、したがって電磁継電器としての特性が悪いといった欠点があった。

本発明は上記の欠点に鑑みてなされたもので、可動部分を可動接点ばねのみとし、固定接点と接触する部分に接点金属を有する磁性導板に、ばね機能をもった腕部と端子への固着部及び両側に剛体部を形成することにより、従来の接極子を不要化し部品点数および溶接工数を少なくすると共に、可動部分の質量を小さくして耐衝撃性を向上させ、且つ固定接点端子を巻線の鉄心とすることによって可動接点ばねの磁気吸引部を鉄心の直上部に位置可能ならしめ、磁気効率の向上を図った気密封止トランスファ形電磁継電器の提供を目的とする。

以下、第3図乃至第5図に示す実施例をもとづいて本発明を説明する。

第3図は自己保持形電磁継電器の第1実施例の分解斜視図、第4図はその断面構造図である。第3図および第4図において、203は軟質磁性体よりなる端子で、その上端部に、両側の隆状突起205aを有し中央に支持面205bを形成した支点部材205を固着している。206は可動接点磁性ばねで、両側に剛体部206aを形成し中央にばね状腕と支点部206bを形成すると共に、両端部下面に接点金属、特に接点金属（図示せず）を設けてある。そして、この磁性ばね206は、剛体部206aが隆状突起205aに支点支持され、支持部206bが支持面205bに固着された状態で支点部材205に取付けられ、隆状突起205aの支点として左右に傾動するよう

4

になっている。端子203の下端は、ハーメチックシールガラス202cを介して金属基板201を貫通している。又、端子203の左右において、鉄心204a、204bがハーメチックシールガラス202a、202bを介して金属基板201を貫通し配置されている。これら鉄心204a、204bには可動接点磁性ばね206磁気的に吸引する永久磁石207a、207bが固着され、更に鉄心204a、204bには励磁巻線208a、208bがそれぞれ巻回されている。又、励磁巻線208a、208bの下端には、金属基板201に接続する継鉄210が配置されている。そして、これら、金属基板201上の接点系は、金属容器209によって密閉封止されている。

次にこの様に構成される電磁継電器の動作について説明する。

可動接点磁性ばね206が、上端部に固定接点としての接点金属を有する鉄心204aと接触し、この状態を永久磁石207aにより磁気保持している場合には、鉄心204a、可動接点磁性ばね206及び端子203を信号経路として電気信号の通過を可能とする。一方、鉄心204b側の経路は開放状態になっていて電気信号は通過しない。この状態において、励磁巻線208a、208bに電流を供給し、鉄心204aを通る磁束 ϕ_1 及び鉄心204bを通る磁束 ϕ_2 を生じされると、鉄心204aの上端部は“S”極に磁化されるため永久磁石207aの“N”極と打ち消し合つて磁気保持力を失う。一方、鉄心204bの上端部は“N”極に磁化されるため、永久磁石207bの“N”極磁束と合成され磁気吸引力を発生し、可動接点磁性ばね206を吸引して、磁性ばね206を反対側に傾動させる。このため、端子203と鉄心204aの間の経路が開放されると共に、端子203と鉄心204bの経路が閉じて電気信号の通過を可能とする。この状態は励磁巻線208a、208bへの電流を停止しても永久磁石207bにより磁気保持される。又、励磁巻線208a、208bにそれぞれ前記動作時と逆方向の電流を供給すると、鉄心204a、204bにはそれぞれ磁束 ϕ_1 、 ϕ_2 とは反対方向の磁束 ϕ_3 、 ϕ_4 が通るため、可動接点磁性ばね206が切替動作を行なつて鉄心204aの上端に接着す

5

るように傾動する。そして、この状態は永久磁石 207a により保持される。

このように、本発明の第 1 の実施例は自己保持機能を有するトランスファーマ形電磁継電器を実現したものである。

第 5 図は本発明における第 2 の実施例を示す構造断面図であり、上記第 1 実施例が自己保持形であるのに対し、この実施例は電流保持形としてある。

すなわち、第 2 実施例のものは、一方の鉄心 204a には永久磁石 207a を配置してあるが、他方の鉄心 204b には永久磁石を配置しない構成としてある。なお、第 5 図中第 1 実施例と同一符号を付してあるものは、第 1 実施例と同一の構成部材である。

次にこの様に構成される第 2 実施例の電磁継電器の動作について説明する。第 5 図に示すように、通常、可動接点磁性ばね 206 は鉄心 204a の上端と接触し、この状態を永久磁石 207a により磁気保持している。この状態では、端子 203 および鉄心 204a を信号端子として、電気信号の通過を可能ならしめる。ここで、励磁巻線 208a, 208b に電流を供給し、鉄心 204a に磁束 ϕ_s を、又、鉄心 204b に磁束 ϕ_b を生じさせると、鉄心 204a の先端部が“S”極に磁化されるため、永久磁石 207a の“N”極と打ち消し合つて磁気保持力を失う。一方、鉄心 204b の上端部は“N”極に磁化されるため磁気吸引力を発生し可動接点磁性ばね 206 が鉄心 204b の上端部に吸引され切替わる。この切替動作により端子 203 と鉄心 204a の経路は開放され、端子 203 と鉄心 204b 間の経路側に信号を通過させる。この状態は、励磁巻線 208a, 208b への電流供給を維持することにより

6

保持出来る。又、励磁巻線 208a, 208b への電流を停止すると、可動接点磁性ばね 206 はばねによる開離力と鉄心 204a に配置してある永久磁石 207a の吸引力とによつて、鉄心 204a の先端に接触し切替わる。この状態は永久磁石 207a によつて保持される。

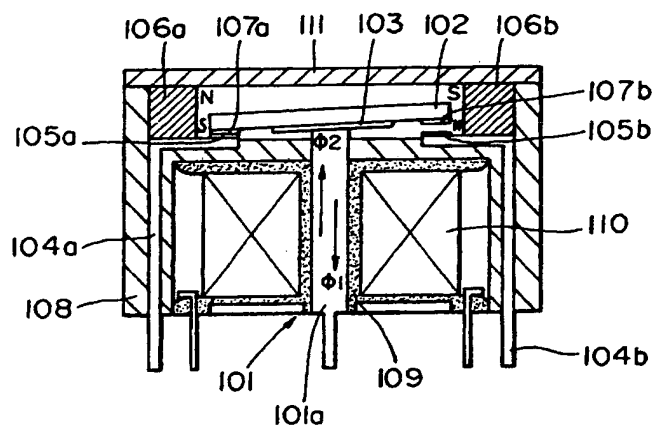
本発明は以上説明したように、固定接点と接触する部分に接点金属を有する磁性薄板を、ばね機能としての腕部と端子への固着部及び両側の剛体部を持つように成形して可動接点磁性ばねとし、この磁性ばねのみを電磁継電器の可動部分としてあるので、従来の接極子を取除くことができ、部品点数及び溶接工数を少なくすることができる。又、可動部分は質量の小さな磁性ばねのみであるため、耐衝撃性に優れた効果があると共に、固定接点端子を励磁巻線の鉄心とする構造としてあるので、可動接点磁性ばねの磁気吸引部を鉄心の直上部とすることができ、磁気効率の向上を図れる効果がある。

図面の簡単な説明

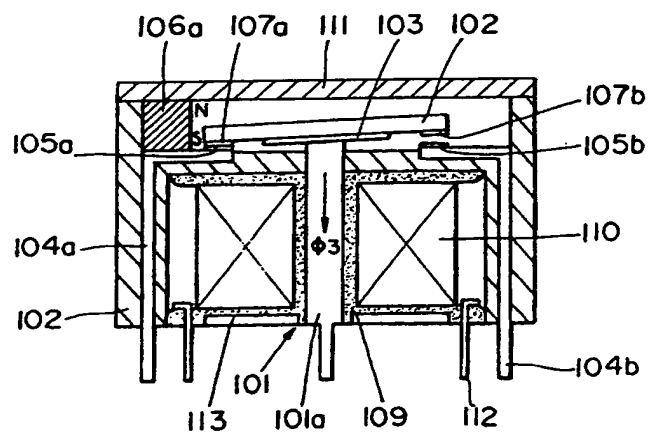
第 1 図及び第 2 図は従来の気密封止トランスファーマ形電磁継電器の要部断面図、第 3 図は本発明第 1 実施例の要部分解斜視図、第 4 図は本発明第 1 実施例の要部断面図、第 5 図は本発明第 2 実施例の要部断面図を示す。

201……金属基板、202a, 202b, 202c……ハーメチックシールガラス、203……端子、204a, 204b……鉄心、205……支点部材、205a……隆状突起、205b……支持面、206……可動接点磁性ばね、206a……剛体部、206b……支持部、207a, 207b……永久磁石、208a, 208b……励磁巻線、209……金属容器、210……継鉄。

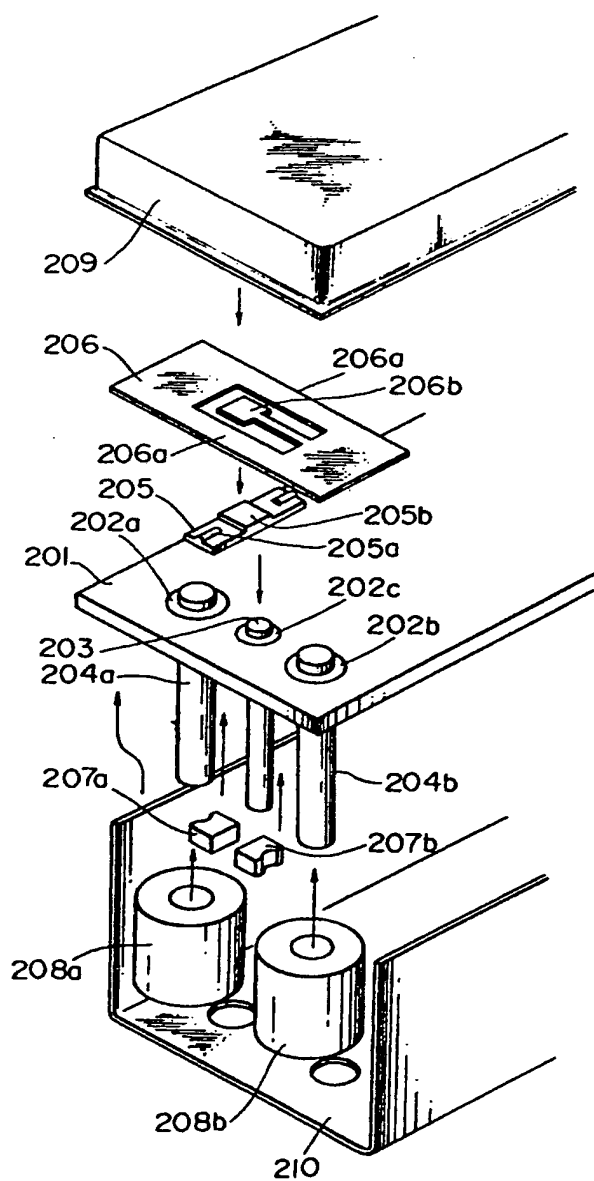
第 1 図



第 2 図



第 3 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)